

概

況



# 概況

## 1. 取扱高

### (1) 年間取扱高

平成元年中（1月5日から12月30日、開市日数 291日）の総取扱数量は、867,538tで前年比 98.4%と前年をやや下回り、総取扱金額は、813,944百万円で前年比102.8%と前年をやや上回ったため、総平均価格は、938円と前年に比べ40円高（4.5%高）となった。取扱数量では、鮮魚類は、2年続きの豊漁だったサンマのほか、サバ、マイワシ、スルメイカなどが入荷増となり、マグロ類も国内物、輸入物ともに増加、カツオ、ハマチ、マアジなどは減少したが、全体では 1.9%増となった。冷凍魚類は、冷サケ・マス類のほか、安値安定の冷ギンタラ、輸入の増えている冷タコが増加となったが、冷マグロ類は、沖漁不振による在庫薄を反映し減少、冷イカ類も生鮮物に押され減少、全体では 4.3%減となった。活魚類は、1.5%増となった。加工品は、焼物製品と湯煮品が増加となったが、塩蔵品、塩干品、煮干製品などが減少し、全体ではほぼ前年並となった。貝類、淡水魚類、海藻類は減少となった。取扱金額では、鮮魚類は 8.6%増加、活魚類は 15.5%増加、貝類は 8.5%増加、冷凍魚類は 1.5%減少、淡水魚類は 5.5%増加、海藻類は 0.8%の増加、加工品は 1.6%の増加となった。平均価格では、鮮魚類は 6.6%高、活魚類は13.8%高、貝類は 16.5%高、冷凍魚類は 3.0%高、淡水魚類は8.9%高、海藻類は 8.3%高、加工品は 1.5%高となった。

### (ア) 生鮮品

鮮魚類の取扱数量は、176,894tで前年比 101.9%とやや増加し、平均価格は、1,029円で前年比 64円高となった。主要品目で見ると、前年に引き続き豊漁となった、サンマが 1.7割増（1,747t増）となり、平均価格は 96円安となった。サバは、三陸巻網漁が極端な不振となり前年以上に不漁となったが、入荷は 1.9割増となり、再び10,000t台となった。マグロ類は、三陸沖の巻網中小型マグロが前年に比べ倍増し、輸入物本マグロ、キワダの搬入が順調で、入荷はマグロが 2.2割増、キワダが 2.4割増となり、全体では 1.1割増となった。平均価格では、マグロが 144円高、キワダが 129円高となった。マイワシは、道東巻網漁がシケで操業日数が大幅に減るなど、前年に比べ不漁であったが、入荷は0.7割増となり、平均価格は23円安となった。スルメイカは、年間を通し豊漁が続き、3.3割増となり、平均価格は 151円安となった。マアジは、前年とは様

変わりの漁不振で、0.9割減となり、平均価格は90円高となった。カツオは、各地で漁まとまらず、入荷は 1.3割減となり、平均価格は 136円高となった。養殖ハマチは 1.9割減となり、平均価格は151円高となった。ヒラメは、小幅減となった。活魚類の取扱数量は、12,036tで活ハマチ、活マタイなどが減少したが、活アナゴ、活カンパチなどが増加し、前年比 1.5%増となった。平均価格は、2,029円で、前年比 246円高となった。貝類の取扱数量は、55,794tで、前年比 90.6%と減少した。平均価格は、909円で前年比 123円高となった。主要品目で見ると、アカ貝が3割減となり 286円高、アサリがほぼ前年並で34円高、アワビが 0.6割減で 1,141円高、トリ貝が 3.6割減で 814円高、アオヤギが 0.2割減で 109円高、ムキカキが 1割減で 113円高、ムキホタテ貝が 3.1割増で 102円安となった。淡水魚類の取扱数量は、3,738tで前年比 94.5%と減少し、平均価格は 1,406円で前年比 160円高となった。主要品目で見ると、アユが0.4割減で121円高となった。ウナギが 1.2割減で 277円高となった。

### (イ) 冷凍品

冷凍魚類の取扱数量は、292,752tで前年比 95.7%と減少し、平均価格は 1,003円で前年比31円高となった。冷エビ類は、タイ物が 5.9倍と急増したのに反し、台湾物が4分の1に減少、インドネシア物が 1.8割増、フィリピン物が 1.7割減となり、全体では 0.5割減（1,748t減）となった。平均価格は、1,551円で前年比24円安となった。冷サケ・マス類は、輸入量、秋サケの漁獲量も増加、入荷も 1割増となった。平均価格は安値で推移し、969円と前年比 272円安となった。冷イカ類は、前年に引き続き豊富な在庫に加え、特に8、9、10月は生鮮スルメイカが潤沢に出回り、需要が一段と落ち込み、0.9割減となった。平均価格は 550円で、前年比69円高となった。冷マグロ類は、主力のメバチは小幅減にとどまったものの、インドが 2.9割減、キワダが 3.6割減など軒並み減少し、全体では 1.2割減となった。平均価格は、1,729円で 230円高となった。その他の冷凍魚類では、冷タコは 1割増となり、平均価格は 655円と前年並となった。冷スリミは、ほぼ前年並の取扱で11円高となった。冷サバは、1.5割減となり38円安となった。冷凍貝類の取扱数量は、6,794tで前年比 122.2%となった。平均価格は1,267円で、前年比143円高となった。主要品目で見ると、ホタテ貝は 4.8割増となり、172

図1-1 総取扱数量の動き

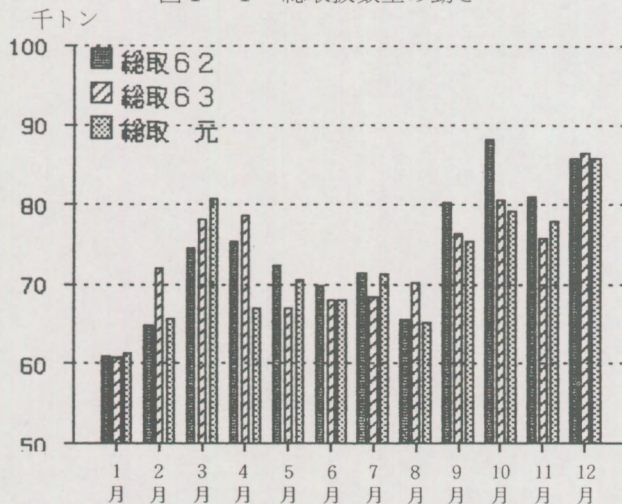
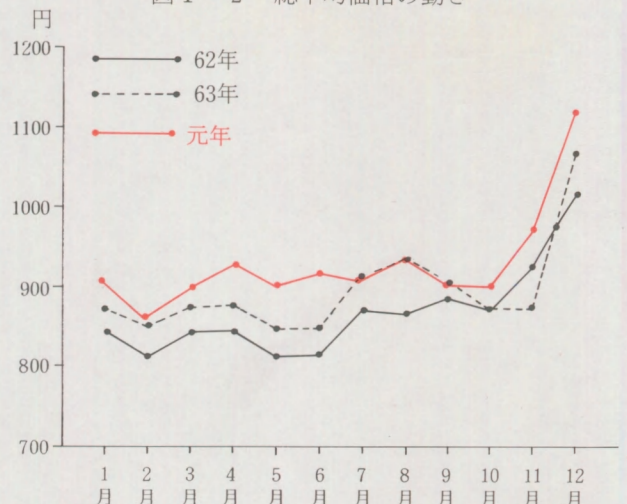
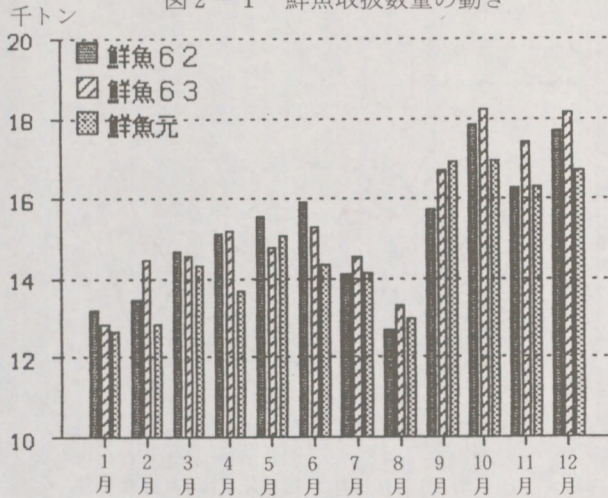


図1-2 総平均価格の動き



注. 図・統計表については、凡例の3、編集方法及び利用上の注意を参照のこと。

図2-1 鮮魚取扱数量の動き



円安となった。冷アワビは2倍増となり、804円安となった。冷ムキアワビは、冷アワビの増加に伴い5.2割減となり、243円高となった。冷凍淡水魚類の取扱数量は、624tで前年比113.3%となり、平均価格は793円で159円安となった。主要品目で見ると、冷アユが2.3割減となり、31円安となった。冷ワカサギは3.2割増となったが、価格は33円高となった。

(ウ) 加工品

加工品の取扱数量は、311,685tで前年比100.1%と前年並となり、平均価格は、790円で前年比12円高となった。主要品目で見ると、焼物製品は、蒲焼ウナギが4.3割増となり、全体では1.5割増となった。平均価格は169円高となり、年間を通して前年に比べ小高く推移した。煮干製品は、煮干イワシは1.8割減で61円安、シラス干は0.7割増で206円安、コウナゴは1.5割減で136円高となり、全体では0.6割減、平均価格は1,110円で71円安となった。素干品は、干スルメ(国内)が5.9割増となったが、ミガキニシンが1.3割減となり、全体では0.3割減となった。平均価格は1,189円で51円安となった。練製品は、生チクワ、カマボコ、アゲモノがそれぞれ0.4割減となり、全体では0.5割減となった。平均価格は、464円で18円高となった。塩干品は、ここ数年増加となっていた開干アジがわずかながら減少となり、平均価格は14円安、開干サバは2.7割減で、32円高、全体では小幅減となり、平均価格は、489円で7円安となった。塩蔵品は、前年急増した塩アキサケが小幅減となり、119円安となった。イクラは、北海

図3-1 貝類取扱数量の動き

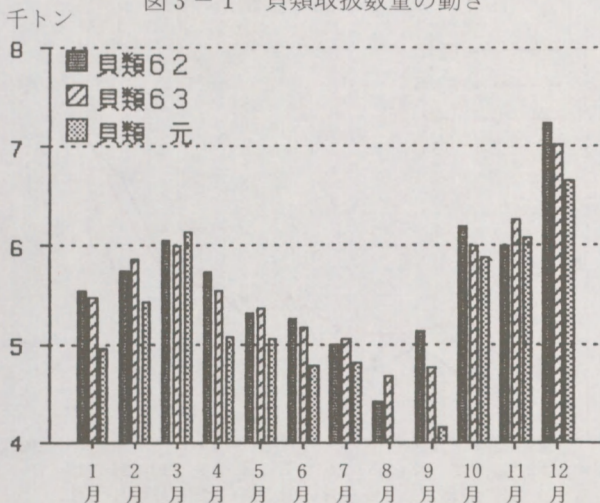
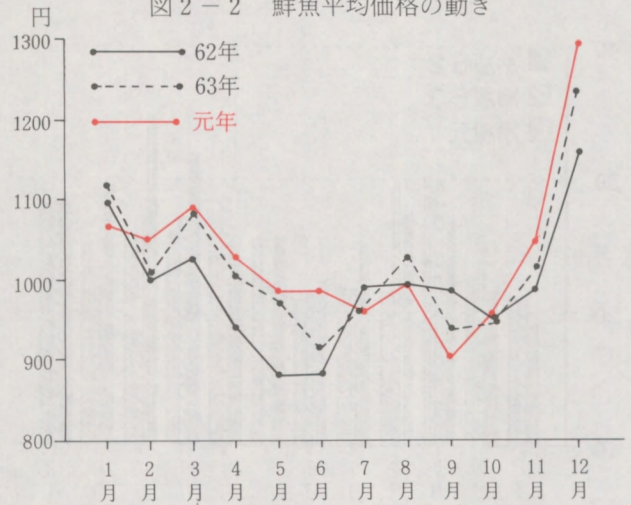


図2-2 鮮魚平均価格の動き



道アキサケの大漁を受け1.4割増で144円安、スジコは、アラスカ輸入物の搬入が好調で1.3割増、69円高。メンタイコは、原卵高のため2.4割減で587円高。全体では、小幅減となり、平均価格は1,656円で3円安となった。

(2) 月別取扱高

1月

☆鮮魚類 取扱数量 12,677t (対前年比 106.2%)  
平均価格 1,064円 ( " 14円安)

取扱数量では、キワダ、メバチがカロリン周辺漁場の水揚げ多くインドネシア産が増加し、3~6割増となった。マアジは、昨年からの順調入荷が続き2.5割増となった。スルメイカは、関西、日本海とも水揚げ順調から3.5割増となった。平均価格では、不漁の続くメジが6.7割高となった。サワラ類、アンコウも入荷少なく、3~3.5割高となった。

☆活魚類 取扱数量 903t (対前年比 99.7%)  
平均価格 1,747円 ( " 177円高)

取扱数量では、活ヒラメ、活レイが1.3~1.8割増となった。活マタイが2.8割の減少となった。平均価格では、活スズキが2割高、活マタイが1.5割高となった。

☆貝類 取扱数量 4,957t (対前年比 90.7%)  
平均価格 863円 ( " 57円高)

カキ、ムキホタテ貝などが増加したが、アカ貝、アオヤギ等減少したものが多かった。

☆冷凍魚類 取扱数量 21,128t (対前年比 100.5%)

図3-2 貝類平均価格の動き

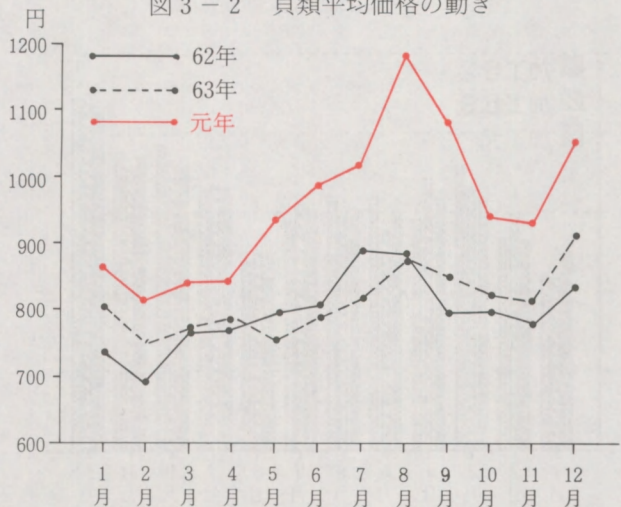
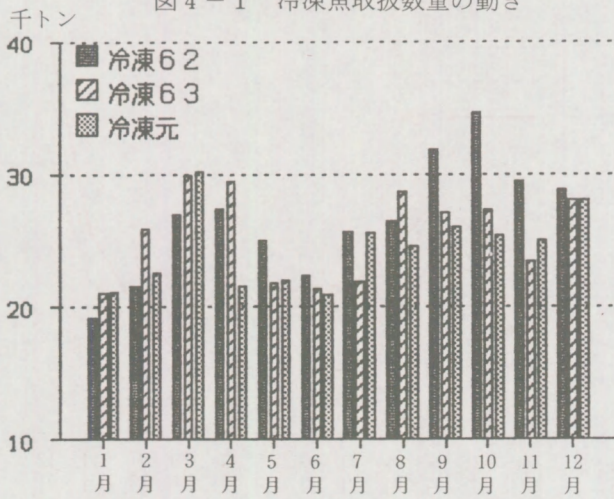


図4-1 冷凍魚取扱数量の動き



平均価格 989円 ( // 52円高)

取扱数量では、冷マグロ類が、キワダ2倍増、ビンナガ9割増となったが、在庫減少、沖漁停滞でホンマグロ、メバチ、印度マグロが減少し、全体としては0.5割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、数量の伸びたキワダ、ビンナガが、それぞれ2.7割高、2.5割高となり、全体では、1.2割高となった。冷タイ類は、サクラタイが6.5割高、マタイ、レンコタイも2~2.8割高となり、全体では4割高となった。その他の冷凍魚では、冷サンマが4割安となった。

☆加工品類 取扱数量 20,959t (対前年比 101.0%)  
平均価格 720円 ( // 31円高)

取扱数量では、焼物製品が、蒲焼ウナギ6.9割増となり、全体で2割増加し、その他食品も前年を上回った。塩蔵品は、塩サケでは、塩ベニサケが5割減少した外は、1~5割増となったものの、1月実績としては過去5年間の最低となった。平均価格では、塩蔵品は、入荷減少の塩カズノコが6.5割高、同じく塩ベニサケが3割高となり、全体で1.8割高となった。

2月

☆鮮魚類 取扱数量 12,855t (対前年比 94.5%)  
平均価格 1,049円 ( // 82円高)

取扱数量では、入荷順調のキワダが2.4倍増となった。サンマが7.5割増となった。サバは、2月に入って最盛期を迎えたが、伊豆沖のたもすくい網漁が黒潮の異変により不漁、2割減となった。タラ類は暖冬に災いされ1.5割減

図5-1 加工品取扱数量の動き

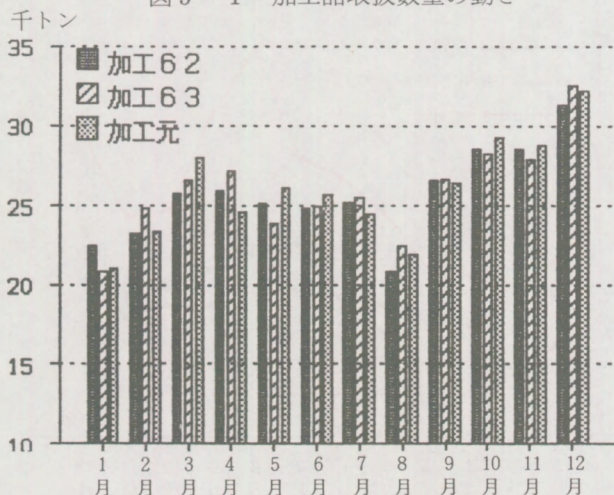
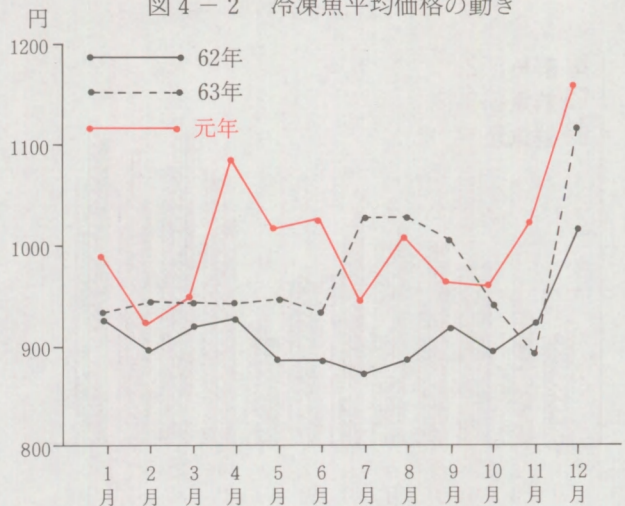


図4-2 冷凍魚平均価格の動き



となった。平均価格では、サバが2割高となった。2.4倍増となったキワダが1.4割安、大幅増のサンマが4.5割安となった。

☆活魚類 取扱数量 853t (対前年比 97.2%)  
平均価格 1,846円 ( // 199円高)

取扱数量では、活カレイが4.5割増加、活マタイが2.8割減となった。平均価格では、入荷減少の活マタイが3.5割高、入荷増の活カレイが2.4割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,418t (対前年比 92.6%)  
平均価格 814円 ( // 63円高)

アサリ、カキが増加したが、アカ貝、ホタテ貝、アオヤギ、ムキカキが減少した。

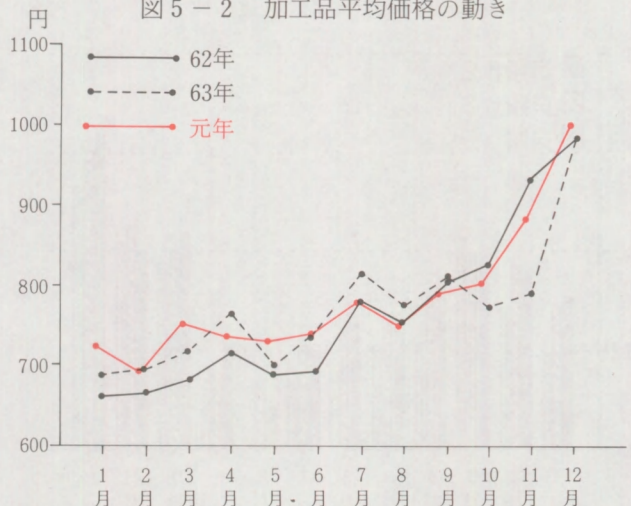
☆冷凍魚類 取扱数量 22,524t (対前年比 87.0%)  
平均価格 920円 ( // 26円安)

取扱数量では、冷マグロ類が、キワダ8倍増も、メバチ2.5割減、印度マグロ3.8割減などで全体としては、2.5割減となった。冷カレイ類は、カラスがアイスランドからの輸入もあり、2.3倍増となり、全体では、1.3倍増となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが7.4割減となり全体で4.2割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチ、印度マグロ、ビンナガが2.9~3割高となり、全体では、2.5割高となった。入荷増の冷カレイ類は、2.4割安となった。入荷減少の冷タイ類は、9割高となった。

☆加工品類 取扱数量 23,293t (対前年比 93.7%)  
平均価格 692円 ( // 4円安)

取扱数量では、焼物製品が、蒲焼ウナギ2.3倍増となり、全体で3.6割増となった。塩蔵品は、塩ベニサケが5.4割減

図5-2 加工品平均価格の動き



少となり、全体では1.7割減となった。塩干品は、開干サンマが1割減、開干サバが3割減となり、全体では2.3割減となった。平均価格では、塩蔵品が、小幅高、塩干品が昨年と同額となった。

## 3月

☆鮮魚類 取扱数量 14,303t (対前年比 105.3%)  
平均価格 1,088円 ( // 61円高)

取扱数量では、キワダが2.3倍増、豊漁のマアジが4割増となった。メバチは、1.7割増となった。昨年末から東シナ海の不漁が続くサワラが4.5割減となった。スルメイカは、日本海の漁不振もあり1.8割減となった。平均価格では、サワラが3.3割高となった。入荷増のマアジが2割安となった。キワダは、0.5割安、スルメイカは小幅安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,064t (対前年比 109.3%)  
平均価格 1,986円 ( // 183円高)

取扱数量では、活カンパチが4.3割増となった。活ヒラメは、2.9割増加となった。活マタイは、2.2割減となった。平均価格では、活マタイが1.9割高、活ヒラメが1.3割安となった。

☆貝類 取扱数量 6,131t (対前年比 102.5%)  
平均価格 841円 ( // 66円高)

ムキホタテ貝が6割増、アオヤギが3.6割増となった。トリ貝が4.7割減、アカ貝が2.3割減となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 30,133t (対前年比 100.9%)  
平均価格 946円 ( // 2円高)

取扱数量では、冷マグロ類が、キワダが8割増、ホンマグロが1.2割増となったが、西経漁場やインド洋の漁が思わしくなく、メバチ、ビンナガ、印度マグロが2.5~6割減となり、全体では2.5割減となった。冷イカ類は、1.3割減となった。平均価格では、入荷減少の冷マグロ類は、メバチ、ビンナガ、印度マグロが3割高となり、全体では、2.5割高となった。入荷増の冷カレイ類は、2.4割安となった。

☆加工品類 取扱数量 28,008t (対前年比 105.4%)  
平均価格 749円 ( // 31円高)

取扱数量では、焼物製品が3.8割増となった。塩蔵品は、塩アキサケが1割増、塩シロサケが2割増となったが、塩ベニサケが4.7割減となり、全体ではほぼ前年並となった。平均価格では、焼物製品が1.4割高となった。素干品が1.3割高となった。塩蔵品では、メンタイコが5割高となったが、全体では小幅高となった。

## 4月

☆鮮魚類 取扱数量 13,684t (対前年比 96.8%)  
平均価格 1,025円 ( // 70円高)

取扱数量では、キワダが1.9割増となった。キンメタイは、2割増となった。サワラは、不振のまま、東シナ海の漁も終了し、5.5割減となった。ハマチは、2.7割減となった。平均価格では、カツオが例年に比べ入荷少なく小幅高となった。サワラは、2.6割高となった。大量入荷の続くサンマは、4.3割安となった。マナカツオは、3.2割安となった。シロサケは、3.4割安となった。

☆活魚類 取扱数量 980t (対前年比 94.5%)  
平均価格 1,966円 ( // 270円高)

取扱数量では、活シマアジが4.4割増となった。活マタイは、2.9割減となった。平均価格では、活ハマチが2.7割高、活ヒラメが2.7割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,071t (対前年比 91.5%)  
平均価格 848円 ( // 61円高)

ハマグリ、ムキホタテ貝等が増加し、アカ貝、トリ貝等が減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 21,551t (対前年比 73.1%)  
平均価格 1,082円 ( // 140円高)

消費税の影響からか全般に市況低迷の月であったが、特

に冷凍魚類の落ち込みは大きかった。取扱数量では、冷マグロ類は、ビンナガが5割増となったが、メバチ、キワダ、印度マグロが2~4割減少し、全体で2割減となった。冷イカ類は、スルメイカが2割増となったが、全体では、3割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチが3.5割高、キワダが6割高となり全体では2.7割高となった。冷サケ・マス類は、シロサケが3.8割安となり、全体では0.5割安となった。

☆加工品類 取扱数量 24,585t (対前年比 90.4%)  
平均価格 735円 ( // 28円安)

取扱数量では、焼物製品が1割増となった。塩蔵品は、塩アキサケが6.7割減、塩ベニサケが4.7割減となり、全体では3.5割減となった。煮干製品は、煮干いわしが4.3割減となり、全体では1.5割減となった。平均価格では、素干品は、干スルメが1.9割高となり、全体では1.4割高となった。塩蔵品は、塩ベニサケが1.3割高、スケコが1.5割高となり、全体では0.6割高となった。

## 5月

☆鮮魚類 取扱数量 15,083t (対前年比 109.2%)  
平均価格 984円 ( // 65円高)

取扱数量では、マグロが近海巻網漁好調で5割増となった。スルメイカは、日本海沿岸の漁が順調で、3.6割増となった。ハマチは、1.3割減となった。キンメタイは、1.8割減となった。平均価格では、入荷減のハマチが2.2割高となった。マアジは3.7割高となった。入荷増のスルメイカは、1.5割安となった。サンマは4.5割安、キンメタイは、1.9割安となった。

☆活魚類 取扱数量 988t (対前年比 100.4%)  
平均価格 2,015円 ( // 283円高)

取扱数量では、活カンパチが5割増、活シマアジが4.6割増となり、千葉、神奈川方面の近海魚種の出回りが豊富であった。平均価格では、活マタイが4割高、活ハマチが1.8割高となった。

☆貝類 取扱数量 5,055t (対前年比 94.5%)  
平均価格 934円 ( // 179円高)

ウミタケ、エゾアワビ、ムキハマグリ等が増加し、アカ貝、ハマグリ等が減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 22,029t (対前年比 101.0%)  
平均価格 1,017円 ( // 69円高)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、シロサケが大幅増加となり、全体でも2.4倍となった。冷マグロ類は、キワダが2.2割減、インドが3.4割減、ビンナガも大幅減少し、全体では0.9割減となった。冷イカ類は、モンゴウが在庫払底のため搬入量も減少し4.3割減、ムキイカも3.2割減となり、全体では3.5割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、キワダが6.8割高、インドが2.4割高となり全体では、2割高となった。冷サケ・マス類は、シロサケが2割安となり、全体では3割安となった。

☆加工品類 取扱数量 26,095t (対前年比 109.2%)  
平均価格 728円 ( // 25円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩シロサケが2.5倍、塩ベニサケは4.6割減となり、全体では1.8割増となった。素干品は、干スルメが増加したが、ミガキニンシが大幅減少し、全体では、1割減となった。平均価格では、塩蔵品は、入荷減の塩ベニサケが1割高、大幅入荷増の塩シロサケが2割安となり、全体では、小幅安となった。

## 6月

☆鮮魚類 取扱数量 14,350t (対前年比 100.5%)  
平均価格 984円 ( // 130円高)

取扱数量では、スルメイカが日本海北部水域の漁好調で6.3割増となった。マタイが2.6割増となった。カツオは、漁不振で、好調だった昨年を大きく下回り、入荷量も2.5割減となった。カレイ類は、1.6割減となった。平均価格では、入荷減のカツオが6割高となった。カレイ類は、

1.3割高となった。入荷増のスルメイカは3割安、シロサケは、3.6割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,021t (対前年比 101.0%)  
平均価格 2,062円 ( " 295円高)

取扱数量では、活カンパチが4.3割増、活シマアジが4.5割増となった。活マタイは、2.3割減となった。平均価格では、活アナゴが4.6割高、活イカ類が3.9割高となった。

☆貝類 取扱数量 4,772t (対前年比 92.4%)  
平均価格 984円 ( " 194円高)

ホタテ貝が、増加したが、アカ貝が大幅減少し、ハマグリ、ウミタケなども減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 20,956t (対前年比 98.0%)  
平均価格 1,028円 ( " 92円高)

取扱数量では、冷カレイ類は、アサバが2.6割増、カラスが2倍増となり、全体では8.3割増となった。冷イカ類は、スルメが3.2割減となり、全体では2.7割減となった。平均価格では、冷イカ類は、スルメが2.6割高となり、全体では4.3割高となった。入荷減の冷タイ類が4.7割高となった。冷サケ・マス類は、シロサケが4割安となり、全体では2.7割安となった。

☆加工品類 取扱数量 25,675t (対前年比 103.1%)  
平均価格 741円 ( " 4円安)

取扱数量では、煮干製品は、煮干イワシが2.3割増、シラス干が6割増となり、全体では1.6割増となった。素干品は、干スルメが2.2割増となり、全体では1.6割増となった。塩蔵品は、塩アキサケが4割減、塩シロサケが1.8割減となり、全体では0.7割減となった。平均価格では、素干品は、干スルメが0.8割高となり、全体では小幅高となった。塩蔵品は、塩アキサケが2.2割安、塩シロサケが2割安となり、全体では小幅安となった。

## 7月

☆鮮魚類 取扱数量 14,154t (対前年比 104.7%)  
平均価格 959円 ( " 66円高)

取扱数量では、マグロ、メジが東北沖合の漁好調で、それぞれ3.9割増、5.7割増となった。スルメイカは、各漁場とも好漁で5割増となった。カツオは、好漁だった昨年と比較べ不漁となり、3割減となった。平均価格では、入荷減少のカツオが7割高となった。入荷増のスルメイカは、3.3割安となった。北部太平洋海域で好漁だったマイワシは、1.6割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,063t (対前年比 104.0%)  
平均価格 2,097円 ( " 191円高)

取扱数量では、活シマアジが3.3割増、活スズキが4割増となった。活ハマチが1.6割減、活マタイが2.8割減となった。平均価格では、活マタイが1.1割高、活ヒラメが1.6割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,801t (対前年比 95.0%)  
平均価格 1,015円 ( " 196円高)

ホタテ貝、アオヤギなどが増加したが、アカ貝が大幅減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 25,536t (対前年比 116.7%)  
平均価格 945円 ( " 84円安)

取扱数量では、冷マグロ類は、ホンマグロが3割減、印度が2割減となったが、キワダが4.4割増、メバチが1.6割増となり、全体では0.9割増となった。冷カレイ類は、オヒョウ、カラスが増加したが、アサバ、コガネが減少し、全体では1割減となった。冷サバは、ノルウェー物が増加し5割増となった。平均価格では、入荷減の冷カレイ類が小幅高となった。入荷増の冷サケ・マス類は、3.5割安となった。

☆加工品類 取扱数量 24,496t (対前年比 96.3%)  
平均価格 777円 ( " 37円安)

取扱数量では、焼物製品は、ウナギが増加し、全体では1割増となった。湯煮品は、ナマリ、煮イカなどが減少したが、煮タコが増加し、全体では、小幅増となった。塩蔵

品は、塩サケでは、塩ギンサケを除きすべて減少し、全体では2割減となった。平均価格では、焼物製品が入荷増も小幅高、入荷減の煮干製品が2.5割安となった。

## 8月

☆鮮魚類 取扱数量 12,978t (対前年比 105.1%)  
平均価格 992円 ( " 29円高)

取扱数量では、スルメイカが各地で豊漁、2.3割増となった。2日初入荷となったサンマも豊漁で8.3割増となった。輸入物中心のメバチは、3割減となった。カツオは不漁で4.4割減となった。平均価格では、入荷減のメバチが5.3割高となった。カツオは4.2割高となった。豊漁のスルメイカは、2割安となった。サバは1.8割安、サンマは3割安となった。

☆活魚類 取扱数量 936t (対前年比 95.9%)  
平均価格 2,199円 ( " 344円高)

取扱数量では、活イシタイが2割増、活ヒラメが2倍増となった。活マタイが3割減、活ハマチが2.2割減となった。平均価格では、活マタイが2.4割高、活ヒラメが2.5割安となった。

☆貝類 取扱数量 3,631t (対前年比 77.7%)  
平均価格 1,176円 ( " 303円高)

ハマグリが増加したが、アカ貝、アサリ、アオヤギなどが減少し、全体では大幅減となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 24,609t (対前年比 85.9%)  
平均価格 1,007円 ( " 22円安)

取扱数量では、冷マグロ類は、メカジキのみが2割増でキワダ、インド等大幅減となり、全体では1.2割減となった。冷エビ類は、1月から8か月連続して前年実績を下回り2.2割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケが1.8割減、ベニサケが3.3割減となり、全体では3.3割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、キワダが8.5割高、メバチが2.2割高となり、全体では1.8割高となった。冷サケ・マス類は、シロサケが4.8割安、ベニサケが2.4割安となり、全体では3.1割安となった。

☆加工品類 取扱数量 21,883t (対前年比 97.7%)  
平均価格 751円 ( " 23円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、塩アキサケが1.6割増、塩ベニサケが1.7割増、塩シロサケが2.5割増となり、全体では0.4割増となった。煮干製品は、シラス干が1.9割減となり、全体では1.7割減となった。平均価格では、入荷減少の練製品が、小幅高となった。塩蔵品類は、塩アキサケが4割安、塩シロサケが2.5割安となり、全体では1割安となった。

## 9月

☆鮮魚類 取扱数量 16,892t (対前年比 107.0%)  
平均価格 900円 ( " 22円高)

取扱数量では、サンマは大型物主力で2.7割増となった。サバは、4.4割増となった。キンメタイは、1.3割増となった。ハマチは、産地の放養尾数減少のため2割減となった。平均価格では、入荷減のハマチが2割高、カツオが3.3割高となった。豊漁のサンマが3.6割安となった。入荷増のマグロは小幅安となった。

☆活魚類 取扱数量 938t (対前年比 105.1%)  
平均価格 2,263円 ( " 276円高)

取扱数量では、活アナゴ、活カレイが2割近い増となった。活イシタイは4割減、活マタイは2.5割減となった。平均価格では、活イシタイが1.8割高、活ハマチが2.4割高となった。活カレイは、小幅安となった。

☆貝類 取扱数量 4,158t (対前年比 87.3%)  
平均価格 1,083円 ( " 231円高)

房州方面からの入荷が減少するなどし、シジミを除きほとんどの品目が入荷減となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 25,978t (対前年比 96.1%)  
平均価格 962円 ( " 42円安)

取扱数量では、冷イカ類は、スルメイカが各地の好漁を反映し3倍増、モンゴウがギニアなどからの輸入物が増え4.8割増となり、全体では、2.3割増となった。冷サケ・マス類は、シロサケが3.2割増、ベニサケが3.8割増となり、全体では、4割増となった。冷マグロ類は、キワダが大幅減、インド、メバチなども減少し、全体では、2割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、キワダが3割高となり、全体では2割高となった。冷サケ・マス類は、シロサケが6.3割安となり、全体では3.2割安となった。

☆加工品類 取扱数量 26,373t (対前年比 98.9%)  
平均価格 793円 ( // 17円安)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが5割増、イクラが7.6割増となり、全体では1.8割増となった。練製品類は、チクワ、アゲモノが1.6割減となり、全体では1.2割減となった。平均価格では、練製品類は、小幅高となった。塩蔵品類は、塩ギンサケが2.2割安、塩ベニサケが1.3割安となり、全体では1.2割安となった。

## 10月

☆鮮魚類 取扱数量 16,934t (対前年比 97.9%)  
平均価格 957円 ( // 62円高)

取扱数量では、カツオは、巻網漁が終わり竿釣り漁のみとなったが、漁は前年を上回り、入荷も2.1割増となった。サバは、三陸近海が好漁で6割増となった。マアジは、以西巻網漁の休漁もあり、3.5割減となった。ハマチも3.5割減となった。平均価格では、ハマチが2.8割高、マアジが5.3割高となった。入荷増のサバは、2.7割安、カツオは小幅安となった。

☆活魚類 取扱数量 971t (対前年比 103.0%)  
平均価格 2,077円 ( // 208円高)

取扱数量では、活カレイが2.9割増、活ヒラメが4.1割増となった。活ハマチ、活マタイは、2.2割減となった。平均価格では、活ハマチが1.9割高、活カレイが0.9割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,865t (対前年比 97.9%)  
平均価格 935円 ( // 109円高)

アカ貝が増加したが、アサリ、ハマグリ、ホタテ貝などが減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 25,282t (対前年比 92.6%)  
平均価格 958円 ( // 16円高)

取扱数量では、冷タイ類は2.3倍増となった。冷エビ類は、タイ物が急増し、フィリピン、インドネシア物も増加、全体では、2.6割増となった。冷マグロ類は、輸入物生鮮マグロ類増加の影響で、キワダ、ピンナガが大幅減、インドも2.7割減となり、全体では、2.6割減となった。冷イカ類は、スルメイカが増加となったがモンゴウ、ムキイカ等が減少し全体では、3割減となった。平均価格では、入荷減の冷イカ類が3割減となった。入荷増の冷エビ類は、1割安となった。

☆加工品類 取扱数量 29,279t (対前年比 103.7%)  
平均価格 803円 ( // 29円安)

取扱数量では、塩蔵品類は、スジコが2.7割増、イクラが6割増、塩カズノコが2.4割増となり、全体では、1.6割増となった。煮干製品は、煮干イワシが2割減、シラス干が1.2割減となり、全体では、1.8割減となった。平均価格では、塩蔵品類は、塩カズノコが1割安となったが、スジコ、イクラなどが小幅高となり、全体では、小幅高となった。煮干製品は、小幅安となった。

## 11月

☆鮮魚類 取扱数量 16,281t (対前年比 99.0%)  
平均価格 1,045円 ( // 79円高)

取扱数量では、スルメイカは、日本海の漁が好漁で、9割増となった。マイワシは、2割増となった。サンマ漁は、常盤から鹿島灘に主漁場が移り好漁を続け、11月16日をもって切り上げとなったが、入荷は3割減となった。平均価

格では、入荷減のサンマが小幅高となった。入荷増のスルメイカが4割安となった。マイワシは、2.3割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,000t (対前年比 103.1%)  
平均価格 2,041円 ( // 277円高)

取扱数量では、活カンパチ、活ヒラメが2.5割増となった。活ハマチが1.9割減、活マタイが1.7割減となった。平均価格では、活ハマチが1.8割高、活マタイが1.6割高となった。

☆貝類 取扱数量 6,078t (対前年比 97.0%)  
平均価格 928円 ( // 111円高)

アカ貝が増加したが、ハマグリ、アオヤギ、ムキカキが減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 24,955t (対前年比 106.5%)  
平均価格 1,021円 ( // 130円高)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、ギンサケが6割増、ベニサケが2.7倍増となり、全体では3.7割増となった。冷エビ類は、タイ物が大幅増、インドネシア物、フィリピン物も好調で、5割増となった。冷サンマは、2.8割減となった。平均価格では、ベニサケが1割安となり、冷サケ・マス類は0.8割安となった。冷エビ類は小幅安となった。冷サンマも小幅安となった。

☆加工品類 取扱数量 28,789t (対前年比 103.1%)  
平均価格 884円 ( // 94円高)

取扱数量では、塩蔵品は、イクラが3.4割増、塩カズノコが2.2倍増となり、全体では2割増となった。焼物製品は、1.8割増となった。練製品は、チクワが1.2割減、カマボコが0.8割減となり、全体では、0.7割減となった。平均価格では、塩蔵品は、イクラが小幅高、塩カズノコが1.4割安となったが、全体では0.9割高となった。焼物製品は、入荷増も2.5割増となった。練製品は、小幅高となった。

## 12月

☆鮮魚類 取扱数量 16,703t (対前年比 98.8%)  
平均価格 1,294円 ( // 106円高)

取扱数量では、マイワシは、日本海巻網漁が好漁で1.3割増となった。スルメイカは、山陰沖合と対馬周辺で好漁となり、5.3割増となった。マアジは、2割減となった。キンメタイは、4割減となった。平均価格では、マアジは、3.3割高となった。キンメタイは、4.9割高となった。入荷増のマイワシは、1.6割安となった。スルメイカは2.9割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,319t (対前年比 104.0%)  
平均価格 2,020円 ( // 226円高)

取扱数量では、活シマアジが2割増、活ヒラメが2.8割増となった。活ハマチが1.6割減、活マタイも1.6割減となった。平均価格では、活カンパチが2.3割高、活シマアジが小幅安となった。

☆貝類 取扱数量 6,650t (対前年比 94.8%)  
平均価格 1,051円 ( // 137円高)

シジミが増加したが、アカ貝、ハマグリ、アオヤギなどが減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 28,069t (対前年比 100.1%)  
平均価格 1,159円 ( // 45円高)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、ベニサケが3倍増、ギンサケが2.3倍増となり、全体では、5.7割増加となった。冷イカ類は、モンゴウが1.7割増となったが、ムキイカは、小幅減となり、全体では、0.8割増となった。冷カレイ類は、1.2割減となった。平均価格では、冷カレイ類は、3割高となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが3.3割安となり、全体では、1.2割安となった。

☆加工品類 取扱数量 32,251t (対前年比 99.0%)  
平均価格 1,009円 ( // 31円高)

取扱数量では、塩干品は、開干アジが小幅減となったが、開干サンマが小幅増、丸干イワシも小幅増となり、全体では1割増となった。煮干製品は、煮干イワシが4.5割減と

なり、全体では2.6割減となった。平均価格では、煮干製品は、煮干イワシが1.5割高となり、全体では2.5割高となった。塩干品は、開干サンマが小幅安、丸干イワシも小幅安となり、全体では小幅安となった。

## 2. 主要品目の取扱高

### (1) マグロ類

元年の生鮮マグロ類の入荷量は、三陸沖巻網中小型マグロが倍増したことと、輸入物本マグロ、キワダの搬入が順調であり、1割増となった。平均価格は、堅調に推移し1割高となった。品目別に見ると、マグロはチュニジア、トルコなどからの輸入物も増加2.2割増で小幅高、キワダは巻網漁が好漁で2.4割増で1.3割高となった。冷凍マグロ類では、沖漁の不振が目立つインドマグロが2.9割減で2.1割高、キワダも3.6割減で2.7割高となり、全体では1.2割減、1.5割高となった。

### (2) マアジ

マアジ漁は、前年と様変わりでの不振だった。11月以降に63年級の豊漁が山陰沖合であったものの、春先からの西日本巻網漁は不漁で、回復傾向を示したと思われた資源も1年で返上となった。入荷は0.9割減となった。平均価格は、1.8割高となり、4~12月はどの月も前年を上回った。

### (3) サバ

サバ漁は、4、5月の日本海側での豊漁など散発的な好漁を除いて、秋から年末にかけての三陸沖秋サバの不漁など全般に振るわなかった。水揚高は昨年より減少したものの、入荷は1.9割増となり、ほぼ年間を通して順調な入荷となった。平均価格は、1割安となった。

### (4) イワシ

マイワシは、夏場、台風による操業日数の減少などもあり道東巻網漁の不振が続き、その後の三陸巻網漁も序盤まとまらず、11月以降若干年を上回ったが、年間では前年を下回る水揚高となった。市場へは、常磐沖から紀州沖の物が中心に入荷、0.7割増となり、平均価格は1.2割安となった。

### (5) カツオ

カツオ漁は、前半の初期上りカツオ漁の不振に加え、三陸沖の漁場が沖合に分散化したことなどが重なり、近年まれにみる不漁となった。入荷は1.3割減となった。平均価格は2.8割高となった。

### (6) サンマ

道東海域、三陸沿岸での最盛期サンマ棒受網漁は、台風やシケでやや低調だったものの、9月末までは昨年を上回る水揚高となった。10月以降は出漁規制で水揚高は減少したが、市場入荷は1.7割増となり、平均価格は、大幅に値を下げた昨年をさらに下回り2.3割安となった。

### (7) スルメイカ

全漁連がまとめた平成元年の全国イカ水揚量によると、スルメイカ(生鮮・冷凍)は16万4千t(前年比37%増)となり、昭和55年以来10年ぶりに16万t台の大台に乗った。これは、夏場に日本海側の北海道沿岸で長期にわたり好漁場が形成され、太平洋側の三陸の漁場も回復傾向を見せたため。輸入物ではニュージーランド物が増加した。市場入荷も3.3割増と大幅に増加し、平均価格は2.3割安となった。冷凍物は、冷スルメイカ(国内)が1割弱の増となったが、冷イカ類全体では1割減となった。平均価格では、冷スルメイカ(国内)が1.4割安、全体では1.4割高となった。

### (8) 養殖ハマチ

元年のハマチの入荷数量は、鹿児島県の養漁場のいけすが台風の被害にあい、出荷量が減少したこともあり、1.9割減となった。平均価格は、各月とも前年を上回り、特に5~7月、9~11月は1,000円台で推移し、年間では1.8割高となった。

### (9) サケ・マス類

元年のサケ・マス(生鮮・冷凍)の輸入量は前年比1.2割増となり史上最高となった。また、秋サケの漁獲量も豊漁だった前年をさらに上回った。市場入荷も生鮮サケ・マス類ではシロサケが1.8割増で2.1割安、ギンサケが3.8割増で2.4割安となり、全体では5割増、0.8割安となった。冷凍サケ・マス類は、シロサケが0.6割増で3.7割安、ギンサケが2.2倍増で2.3割安となり、全体では1割増、2.2割安となった。塩蔵品類は、塩アキサケが小幅減で1.7割安、塩シロサケも小幅減で1.5割安と、塩ギンサケを除き若干昨年を下回った。

### (10) 魚卵(スケコ・スジコ・イクラ)

元年の北海道アキサケ来遊量は過去最高となった。アキサケの豊漁を背景にイクラは1.4割増の入荷となった。平均価格は小幅安となった。スジコは、アラスカ輸入物の搬入が好調で1.3割増となった。平均価格は小幅高となった。原卵高のスケコは小幅減となり、平均価格は1.4割高となった。

### (11) エビ類

生鮮エビ類は、中国などの養殖物が増加しているクルマエビが2.4倍増で、平均価格は0.8割安となり、イセエビは4割増で、0.7割安、マキエビは1.3割減で、小幅高、全体では小幅増となり、平均価格は小幅高となった。冷凍エビ類は、輸入のタイ物が5.9倍増と大幅に伸び、平均価格は2.3割安となり、インドネシア物は1.8割増で1割安、反面、台湾物が4分の1と大幅減となり、価格は保合、フィリピン物も1.7割減で1.2割安、全体では、入荷は小幅減で、価格は小幅安となった。

### (12) 加工品類

カマボコでは、珍味カマボコが小幅増になった外はすべて小幅減となり、平均価格はどの品目も小幅高となった。干スルメは、スルメイカの豊漁を背景に、国内物は5.9割増となり、平均価格は2.2割安で、ニュージーランド物は2.1割減となり、小幅安となった。シラス干は0.7割増となり、平均価格は1.4割安となった。

## 3. 市場別取扱高

### (1) 築地市場

総取扱高は、781,739tで前年比97%と減少(22,356t減)し、総取扱金額は、742,239百万円で前年比102%とやや増加(14,068百万円増)した。類別に見ると、鮮魚類の取扱数量は157,575t(2,547t増)で前年比102%となり、取扱金額は、167,287百万円(13,318百万円増)で前年比109%となった。活魚類の取扱数量は、11,157t(221t増)で前年比102%となり、取扱金額は、23,144百万円(3,114百万円増)で前年比116%となった。冷凍魚類の取扱数量は、264,502t(17,948t減)で前年比94%となり、取扱金額は、270,332百万円(7,807百万円減)で前年比97%となった。加工品類の取扱数量は、282,166t(1,965t減)で前年比99%となり、取扱金額は、219,820百万円でほぼ前年並となった。貝類の取扱数量は、56,034t(4,492t減)で前年比93%となり、取扱金額は、53,977百万円(4,193百万円増)で前年比108%となった。淡水魚類の取扱数量は、3,936t(118t減)で前年比97%となり、取扱金額は、5,196百万円(293百万円増)で前年比106%となった。

海藻類の取扱数量は、6,369t(601t減)で前年比91%と

なり、取扱金額は、2,482百万円でほぼ前年並となった。

## (2) 足立市場

総取扱高は、72,052tで前年比103%と増加(2,313t増)し、総取扱金額は、58,006百万円で前年比104%とやや増加(2,321百万円増)した。類別に見ると、鮮魚類の取扱数量は15,796t(330t減)で前年比98%となり、取扱金額は、11,783百万円(171百万円増)で前年比101%となった。活魚類の取扱数量は、764t(5t増)で前年比101%となり、取扱金額は、1,051百万円(131百万円増)で前年比114%となった。冷凍魚類の取扱数量は、22,922t(2,045t増)で前年比110%となり、取扱金額は、17,353百万円(483百万円増)で前年比103%となった。加工品類の取扱数量は、25,531t(729t増)で前年比103%となり、取扱金額は、22,444百万円(1,230百万円増)で前年比106%となった。貝類の取扱数量は、5,952t(155t減)で前年比97%となり、取扱金額は、4,638百万円(285百万円増)で前年比107%となった。淡水魚類の取扱数量は、362t(31t減)で前年比92%となり、取扱金額は、452百万円(3百万円減)で前年比99%となった。海藻類の取扱数量は、725t(49t増)で前年比107%となり、取扱金額は、285百万円(23百万円増)で前年比109%となった。

## (3) 大田市場

平成元年9月18日の大田市場水産物部の開業に伴い、大森市場が廃止され、東京大田魚市場が大田市場へ移転。また、同日から(株)大田合水が業務を開始、大田市場水産物部は卸売会社2社となり業務を開始した。以下の前年対比は、63年の大森市場との対比になっている。

総取扱高は、13,748tで前年比168%と増加(5,543t増)し、総取扱金額は、13,699百万円で前年比175%と増加(5,890百万円増)した。類別に見ると、鮮魚類の取扱数量は3,524t(1021t増)で前年比141%となり、取扱金額は、2,951百万円(904百万円増)で前年比144%となった。活魚類の取扱数量は、116t(48t減)で前年比71%となり、取扱金額は、225百万円(22百万円増)で前年比111%となった。冷凍魚類の取扱数量は、5,328t(2,881t増)で前年比218%となり、取扱金額は、5,800百万円(2,996百万円増)で前年比207%となった。加工品類の取扱数量は、3,988t(1,551t増)で前年比164%となり、取扱金額は、3,863百万円(1,763百万円増)で前年比184%となった。貝類の取扱数量は、601t(117t増)で前年比124%となり、取扱金額は、710百万円(190百万円増)で前年比137%となった。淡水魚類の取扱数量は、64t(6t増)で前年比110%となり、取扱金額は、103百万円(9百万円増)で前年比110%となった。海藻類の取扱数量は、127t(16t増)で前年比114%となり、取扱金額は、48百万円(7百万円増)で前年比117%となった。

## 4. 卸売業者別取扱高

### (1) 築地市場

#### ① 大都魚類(株)

総取扱数量は、155,992tで前年比94%と減少し、総取扱金額は、146,881百万円で前年比101%と増加した。類別には、数量で鮮魚類が、2%増加(563t増)、淡水魚も2%増加(18t増)、主力の冷凍魚類が、11%減少(8,197t減)、加工品類は1%の減少(335t減)となった。金額では、鮮魚類が、8%増加(3,003百万円増)、貝類は11%増加(1,257百万円増)したが、冷凍魚類は、4%減少(2,898百万円減)となった。

#### ② 中央魚類(株)

総取扱数量は、169,328tで前年比99%とやや減少し、総取扱金額は、182,354百万円で前年比103%と増加し、昨年に続き取扱数量・金額ともにトップとなった。類別には、数量で鮮魚類が、3%増加(957t増)したが、冷凍魚類は、2%減少(1,399t減)し、加工品類も4%減少(1,487t

減)となった。金額では、鮮魚類が、11%増加(4,832百万円増)し、主力の冷凍魚類も2%増加、加工品類は、3%減少(1,160百万円減)となった。

#### ③ 東都水産(株)

総取扱数量は、162,826tで前年比97%とやや減少し、総取扱金額は、167,428百万円でほぼ前年並となった。類別には、数量で鮮魚類が、2%減少(606t減)し、冷凍魚類は6%減少(4,351t減)したが、加工品類は、前年並となり海藻類は増加となった。金額では、鮮魚類が、11%増加(4,635百万円増)し、加工品類も、3%増加(1,077百万円増)したが、冷凍魚類は、8%減少(6,126百万円減)となった。

#### ④ 築地魚市場(株)

総取扱数量は、141,532tでやや増加も前年並となり、総取扱金額は、128,679百万円で前年比6%の伸びとなった。類別には、数量で鮮魚類が、4%増加(1,359t増)し、加工品類は、3%増加(1,609t増)、海藻類も増加となったが、冷凍魚類は、2%減少(882t減)となった。金額では、鮮魚類が、9%増加(3,065百万円増)し、冷凍魚類は、7%増加(2,654百万円増)し、加工品類も、3%増加(1,101百万円増)となった。

#### ⑤ 第一水産(株)

総取扱数量は、59,509tで前年比97%とやや減少し、総取扱金額は、57,973百万円で前年比104%の増加となった。類別には、数量で鮮魚類が、3%増加(507t増)したが、冷凍魚類は、2%減少(287t減)となり、加工品類は前年並、淡水魚類・貝類は、減少となった。金額では、鮮魚類は、6%増加(937百万円増)し、加工品類は、8%増加(1,225百万円増)、海藻類・貝類もやや増加となり、冷凍魚類は前年並となった。

#### ⑥ 丸千代田水産(株)

総取扱数量は、74,875tで前年比95%と減少し、総取扱金額は、44,460百万円で前年比95%と減少した。しかし、加工品類の取扱としては、数量・金額ともに昨年に続きトップとなった。類別には、数量で加工品類が、1%減少(752t減)し、海藻類は、26%減少(414t減)と大幅に減少した。金額では、加工品類は、1%減少(303百万円減)し海藻類は、22%減少(135百万円減)となった。

#### ⑦ 総合食品(株)

総取扱数量は、17,679tで前年比94%と減少し、総取扱金額は、14,463百万円で前年比90%と減少した。類別には、数量で加工品類は、6%減少(1,139t減)し、海藻類は、35%減少(22t減)となった。金額では、加工品類は、10%減少(1,534百万円減)し、海藻類は、18%減少(5百万円減)となった。

## (2) 足立市場

### ① 東京北魚(株)

総取扱数量は、25,032tで前年比104%と増加し、総取扱金額は、20,274百万円で前年比108%と増加した。類別には、数量で冷凍魚類が、9%増加(570t増)し、加工品類も、2%増加(249t増)、鮮魚類は、1%減少(37t減)となり、淡水魚類は、13%減少(20t減)となった。金額では、鮮魚類は、5%増加(196百万円増)し、冷凍魚類も、5%増加(232百万円増)、加工品類は、10%増加(824百万円増)となった。

### ② 大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は、25,624tで前年比107%と増加し、総取扱金額は、19,429百万円で前年比103%と増加した。類別には、数量で鮮魚類は、6%増加(280t増)し、冷凍魚類は、21%増加(1,485t増)となり、加工品類は1%増加(138t増)となった。金額では、鮮魚類は、4%増加(159百万円増)し、冷凍魚類は、6%増加(343百万円増)し、海藻類は9%増加(6百万円増)となり、淡水魚類は、減少となった。

### ③ 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は、21,393tで前年比98%と減少し、総取扱

金額は、18,300百万円で前年比101%と増加した。類別には、数量で加工品類は、7%増加(343t減)し、冷凍魚類は、前年並となり、鮮魚類は、8%減少(544t減)し、貝類・海藻類は、減少した。金額では、加工品類は、6%増加(324百万円増)し、鮮魚類は、1%増加(26百万円増)、冷凍魚類は、1%減少(80百万円減)となった。

### (3) 大田市場

#### ① 東京大田魚市場(株)

平成元年9月18日に大森市場から大田市場へ移転となり心機一転営業にも力が入り、取扱数量・金額ともに大きく伸びた。

総取扱数量は、9,880tで前年比120%と増加し、総取扱金額は、10,353百万円で前年比133%と増加した。類別には、数量で鮮魚類は、8%増加(208t増)し、冷凍魚類は、37%増加(909t増)、加工品類は、24%増加(579t増)となった。金額では、鮮魚類は、10%増加(231百万円増)し、冷凍魚類は、45%増加(1,251百万円増)、加工品類は、48%増加(1,004百万円増)となった。

#### ② (株)大田合水

平成元年5月\*場となった大田市場において、9月18日より東京大田魚市場(株)とともに営業を開始した。

元年9月以降の総取扱数量は、3,868tで、総取扱金額は、3,346百万円となった。類別には、数量で鮮魚類は、767t、冷凍魚類は、1,973t、加工品類は972tとなった。金額では、鮮魚類は、698百万円、冷凍魚類は、1,747百万円、加工品類は758百万円となった。

### (4) 買付比率

全体の買付比率は、数量では、49.7%と前年を1.1%上回り、金額では、49.7%と前年を0.5%下回った。

市場別に見ると、築地市場の買付比率は、数量では、49.7%と前年を0.9%上回り、金額では、49.1%と前年を0.7%下回った。足立市場の買付比率は、数量では、49.5%と前年を1.5%上回り、金額では、55.5%と前年を0.6%下回った。大田市場の買付比率は、数量では、52.7%と前年を16.5%上回り、金額では、55.8%と前年を13.5%上回った。

卸業者別に見ると、大都魚類は、数量では、50.7%と前年を0.7%下回り、金額では、47.4%と前年を1.3%下回った。中央魚類は、数量では、55.0%と前年を0.3%上回り金額では、52.2%と前年を0.5%下回った。東都水産は、数量では、52.3%と前年を2.7%上回り、金額では、52.3%と前年を0.5%下回った。築地魚市場は、数量では、34.1%と前年を1.9%上回り、金額では、34.3%と前年を0.1%上回った。第一水産は、数量では、34.9%と前年を1.1%下回り、金額では、40.8%と前年を1.4%下回った。丸千代田水産は、数量では、75.1%と前年を2.1%上回り、

金額では、81.0%と前年を0.7%上回った。総合食品は、数量では、33.4%と前年を3.3%上回り、金額では、57.4%と前年を3.8%上回った。東京北魚は、数量では、45.6%と前年を4.4%上回り、金額では、58.5%と前年を2.0%上回った。大都魚類千住支社は、数量では、46.8%と前年を2.0%上回り、金額では、49.5%と前年を0.4%下回った。中央魚類千住支社は、数量では、57.4%と前年を1.8%下回り、金額では、58.5%と前年を3.7%下回った。東京大田魚市場は、数量では、46.5%と前年を10.3%上回り、金額では、53.7%と前年を11.4%上回った。大田合水は、数量では、68.7%、金額では、62.3%となった。

## 5. 出荷地別取扱高

### (1) 総取扱高

都道府県別の取扱高数量のベスト10は、1位から6位まで前年と変わらず、1位東京・2位静岡・3位宮城・4位千葉・5位北海道・6位愛知となった。7位と8位、9位と10位がそれぞれ前年と入れかわり、7位三重・8位青森9位神奈川・10位岩手となった。取扱高金額のベスト10は、ベスト3は、1位東京・2位静岡・3位北海道と変わらないが、元年も4位以降の順位変動が激しく、4位には宮城が上がり、5位に千葉が下がった。6位には神奈川が上がり、7位には愛知が上がり、8位に岩手、9位に大阪、10位に三重が下がった。

### (2) 鮮魚取扱高

第1位は、サンマなどが豊漁だった宮城となった。前年1位だった東京は、ハマチが大幅に減少し2位となった。3位千葉・4位北海道・5位長崎と前年と変わらず。6位は、キンメタイ、カツオ、スルメイカなどの増加した静岡となった。7位は福岡、8位は三重、9位岩手となり、10位には、マイワシ、サバなどの増加した神奈川が上がった。

### (3) 冷凍魚取扱高

東京は、冷タコ、冷スリミなどが増加、前年に続き1位となった。2位静岡・3位宮城・4位青森と前年と変わらず。神奈川が、冷メバチ、冷キワダなどの増加で5位に上がった。6位は大阪となり、冷ギンタラなどの減少した北海道が7位となった。8位は岩手、9位千葉、10位愛知で前年と変わらずだった。

### (4) 加工品取扱高

東京が前年に続き取扱高5万tを越え、第1位となった。2位は、塩アキサケ、イクラなどの増加した北海道となった。

2位は、塩アキサケ、イクラなどの増加した北海道となった。開干アジの減少した静岡は3位となり、丸干イワシ、煮干イワシなどの減少した千葉が4位となった。5位は宮城、6位に福島が上がり、7位に愛知が下がった。8位三重・9位茨城・10位神奈川は前年と変わらずだった。

表1 年次別取扱高

(単位:トン・千円・%)

| 年次区分 | 元年          | 63年         | 62年         | 61年         | 60年         | 59年         | 58年         |
|------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 総数量  | 867,538     | 882,040     | 889,831     | 865,060     | 852,094     | 855,321     | 818,273     |
| 前年比  | 98.4        | 99.1        | 102.9       | 101.5       | 99.6        | 104.5       | 100.0       |
| 総金額  | 813,943,824 | 791,664,123 | 774,701,487 | 737,241,220 | 735,484,513 | 728,755,797 | 692,041,591 |
| 前年比  | 102.8       | 102.2       | 105.1       | 100.2       | 100.9       | 105.3       | 94.2        |

表 2-1 年次別魚種別取扱数量

(単位：トン・%)

| 年次<br>魚種 | 元 年     |       | 63 年    |       | 62 年    |       | 61 年    |       | 60 年    |       | 59 年    |       | 前 年 比 |       |       |       |       | 元/60 |
|----------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
|          | 数 量     | 構成比   | 数 量     | 構成比   | 数 量     | 構成比   | 数 量     | 構成比   | 数 量     | 構成比   | 数 量     | 構成比   | 元 年   | 63 年  | 62 年  | 61 年  | 60 年  |      |
| 総 数      | 867,538 | 100.0 | 882,040 | 100.0 | 889,831 | 100.0 | 865,060 | 100.0 | 852,094 | 100.0 | 855,321 | 100.0 | 98.4  | 99.1  | 102.9 | 101.5 | 99.6  | 102  |
| 鮮 魚      | 176,894 | 20.4  | 185,477 | 21.0  | 182,210 | 20.5  | 175,220 | 20.3  | 177,786 | 20.9  | 179,383 | 21.0  | 95.4  | 101.8 | 104.0 | 98.6  | 99.1  | 99   |
| 活 魚      | 12,036  | 1.4   | —       | —     | —       | —     | —       | —     | —       | —     | —       | —     | —     | —     | —     | —     | —     | —    |
| 貝 類      | 62,588  | 7.2   | 67,117  | 7.6   | 67,544  | 7.6   | 69,174  | 8.0   | 67,475  | 7.9   | 63,969  | 7.5   | 93.3  | 99.4  | 97.6  | 102.5 | 105.5 | 93   |
| 冷凍魚      | 292,752 | 33.7  | 305,479 | 34.6  | 319,140 | 35.9  | 305,931 | 35.4  | 289,553 | 34.0  | 298,079 | 34.8  | 95.8  | 95.7  | 104.3 | 105.7 | 97.1  | 101  |
| 鯨 類      | —       | —     | 334     | 0.0   | 884     | 0.1   | 1,197   | 0.1   | 2,005   | 0.2   | 2,064   | 0.2   | —     | 37.8  | 73.9  | 59.7  | 97.1  | —    |
| 淡水魚      | 4,362   | 0.5   | 4,505   | 0.5   | 4,740   | 0.5   | 4,686   | 0.5   | 5,047   | 0.6   | 5,096   | 0.6   | 96.8  | 95.0  | 101.2 | 92.8  | 99.0  | 86   |
| 海藻類      | 7,221   | 0.8   | 7,758   | 0.9   | 7,074   | 0.8   | 7,159   | 0.8   | 7,131   | 0.8   | 7,382   | 0.9   | 93.1  | 109.7 | 98.8  | 100.4 | 96.6  | 101  |
| 加工品      | 311,685 | 35.9  | 311,370 | 35.3  | 308,239 | 34.6  | 301,693 | 34.9  | 303,098 | 35.6  | 299,347 | 35.0  | 100.1 | 101.0 | 102.2 | 99.5  | 101.3 | 103  |

表 2-2 年次別魚種別取扱金額

(単位：百万円・%)

| 年次<br>魚種 | 元 年     |       | 63 年    |       | 62 年    |       | 61 年    |       | 60 年    |       | 前 年 比 |       |       |       |       | 元/60 |
|----------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
|          | 金 額     | 構成比   | 金 額     | 構成比   | 金 額     | 構成比   | 金 額     | 構成比   | 金 額     | 構成比   | 元 年   | 63 年  | 62 年  | 61 年  | 60 年  |      |
| 総 数      | 813,944 | 100.0 | 791,664 | 100.0 | 774,701 | 100.0 | 737,241 | 100.0 | 735,485 | 100.0 | 102.8 | 102.2 | 105.1 | 100.2 | 100.9 | 111  |
| 鮮 魚      | 182,021 | 22.4  | 188,661 | 23.8  | 180,410 | 23.3  | 175,184 | 23.8  | 165,137 | 22.5  | 96.5  | 104.6 | 13.0  | 106.1 | 103.1 | 110  |
| 活 魚      | 24,421  | 3.0   | —       | —     | —       | —     | —       | —     | —       | —     | —     | —     | —     | —     | —     | —    |
| 貝 類      | 59,326  | 7.3   | 54,657  | 6.9   | 53,436  | 6.9   | 47,731  | 6.5   | 46,985  | 6.4   | 108.5 | 102.3 | 112.0 | 101.6 | 102.0 | 126  |
| 冷凍魚      | 293,484 | 36.1  | 297,004 | 37.5  | 291,384 | 37.6  | 282,533 | 38.3  | 282,574 | 38.4  | 98.8  | 101.9 | 103.1 | 100.0 | 99.3  | 104  |
| 鯨 類      | —       | —     | 928     | 0.1   | 1,993   | 0.3   | 2,109   | 0.3   | 2,750   | 0.4   | —     | 46.6  | 94.5  | 76.7  | 105.7 | —    |
| 淡水魚      | 5,751   | 0.7   | 5,451   | 0.7   | 6,201   | 0.8   | 5,998   | 0.8   | 6,622   | 0.9   | 105.5 | 87.9  | 103.4 | 90.6  | 100.7 | 87   |
| 海藻類      | 2,815   | 0.3   | 2,792   | 0.4   | 2,512   | 0.3   | 2,556   | 0.3   | 2,619   | 0.4   | 100.8 | 111.1 | 98.3  | 97.6  | 95.1  | 107  |
| 加工品      | 246,126 | 30.2  | 242,171 | 30.6  | 238,766 | 30.8  | 221,130 | 30.0  | 228,798 | 31.1  | 101.6 | 101.4 | 108.0 | 96.6  | 101.3 | 108  |

表 2-3 年次別魚種別平均価格

(単位：キロ当たり円・%)

| 年次<br>魚種 | 元 年   |       | 63 年  |       | 62 年  |       | 61 年  |       | 60 年  |       | 対 60 年 指 数 |     |     |     |     |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|-----|-----|-----|-----|
|          | 価 格   | 前年比   | 価 格   | 前年比   | 価 格   | 前年比   | 価 格   | 前年比   | 価 格   | 前年比   | 元年         | 63年 | 62年 | 61年 | 60年 |
| 総 数      | 938   | 104.5 | 898   | 103.1 | 871   | 102.2 | 852   | 98.7  | 863   | 101.3 | 109        | 104 | 101 | 99  | 100 |
| 鮮 魚      | 1,029 | 101.2 | 1,017 | 102.7 | 990   | 99.0  | 1,000 | 107.6 | 929   | 104.0 | 111        | 109 | 107 | 108 | 100 |
| 活 魚      | 2,029 | —     | —     | —     | —     | —     | —     | —     | —     | —     | —          | —   | —   | —   | —   |
| 貝 類      | 948   | 116.5 | 814   | 102.9 | 791   | 114.6 | 690   | 99.1  | 696   | 96.7  | 136        | 117 | 114 | 99  | 100 |
| 冷凍魚      | 1,003 | 103.2 | 972   | 106.5 | 913   | 98.8  | 924   | 94.7  | 976   | 102.2 | 103        | 100 | 94  | 95  | 100 |
| 鯨 類      | —     | —     | 2,776 | 123.1 | 2,255 | 128.0 | 1,762 | 128.4 | 1,372 | 108.9 | —          | 202 | 164 | 128 | 100 |
| 淡水魚      | 1,318 | 108.9 | 1,210 | 92.5  | 1,308 | 102.2 | 1,280 | 97.6  | 1,312 | 101.7 | 100        | 92  | 100 | 98  | 100 |
| 海藻類      | 390   | 108.3 | 360   | 101.4 | 355   | 99.4  | 357   | 97.3  | 367   | 98.4  | 106        | 98  | 97  | 97  | 100 |
| 加工品      | 790   | 101.5 | 778   | 100.4 | 775   | 105.7 | 733   | 97.1  | 755   | 100.0 | 105        | 103 | 103 | 97  | 100 |

注 平成元年から活魚類を大分類とし、鯨類は削除、生鯨は鮮魚類へ、冷凍鯨は冷凍魚類へ区分した。

表 3 - 1 市場別・年次別取扱数量

(単位：トン・円)

| 市場     | 年次<br>区分     | 元 年             |       | 63 年            |       | 62 年             |       | 61 年             |       | 60 年            |       |
|--------|--------------|-----------------|-------|-----------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|-----------------|-------|
|        |              |                 | 構成比   |                 | 構成比   |                  | 構成比   |                  | 構成比   |                 | 構成比   |
| 総<br>数 | 数 量<br>前 年 比 | 867,538<br>98.4 | 100.0 | 882,040<br>99.1 | 100.0 | 889,831<br>102.9 | 100.0 | 865,060<br>100.2 | 100.0 | 852,094<br>99.6 | 100.0 |
| 築<br>地 | 数 量<br>前 年 比 | 781,739<br>97.2 | 90.1  | 804,095<br>98.7 | 91.2  | 814,995<br>102.7 | 91.8  | 793,742<br>100.3 | 91.8  | 782,748<br>99.8 | 91.9  |
| 足<br>立 | 数 量<br>前 年 比 | 72,052<br>103.3 | 8.3   | 69,740<br>103.8 | 7.9   | 67,176<br>104.8  | 7.4   | 64,078<br>103.1  | 7.4   | 62,122<br>98.3  | 7.3   |
| 大<br>田 | 数 量<br>前 年 比 | 13,748<br>167.6 | 1.6   | 8,205<br>107.1  | 0.9   | 7,660<br>105.8   | 0.8   | 7,241<br>100.2   | 0.8   | 7,224<br>97.3   | 0.8   |

表 3 - 2 市場別・年次別取扱金額

(単位：百万円・%)

| 市場     | 年次<br>区分     | 元 年              |       | 63 年             |       | 62 年             |       | 61 年             |       | 60 年             |       |
|--------|--------------|------------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|
|        |              |                  | 構成比   |                  | 構成比   |                  | 構成比   |                  | 構成比   |                  | 構成比   |
| 総<br>数 | 金 額<br>前 年 比 | 813,944<br>102.8 | 100.0 | 791,664<br>102.2 | 100.0 | 774,701<br>105.1 | 100.0 | 737,241<br>100.2 | 100.0 | 735,485<br>100.9 | 100.0 |
| 築<br>地 | 金 額<br>前 年 比 | 742,239<br>101.9 | 91.2  | 728,171<br>101.9 | 92.0  | 714,538<br>105.1 | 92.2  | 680,173<br>100.3 | 92.3  | 678,424<br>101.0 | 92.2  |
| 足<br>立 | 金 額<br>前 年 比 | 58,006<br>104.2  | 7.1   | 55,685<br>105.2  | 7.0   | 52,920<br>105.6  | 6.8   | 50,128<br>100.2  | 6.8   | 50,043<br>99.7   | 6.8   |
| 大<br>田 | 金 額<br>前 年 比 | 13,699<br>175.4  | 1.7   | 7,808<br>107.8   | 1.0   | 7,243<br>104.4   | 0.9   | 6,940<br>98.9    | 0.9   | 7,018<br>98.1    | 1.0   |

注 平成元年9月18日に大森市場が廃止され、大田市場の水産物部が業務を開始。大森市場の取扱分は大田市場に含めて計上。